

家族の一員として

《小学生の部 金賞》

五日市東小学校五年 瀬尾 彩

母が入院して、当たり前だった生活が当たり前ではなくなった。父が仕事をしている間は私が家事をする。妹と弟が手伝ってくれない時もある。初めの一週間はがまんできた。でも、そのうち、どうして言わないとやってくれないの、私ばかりやっている、と思うようになった。その時、はっとした。母は、いつも私が手伝わなくても文句を言わずにやってくれていた。自分の大変な状況と、その時の母の気持ちを使うと涙がこぼれた。私とみんなと協力する時に気をつかい始めたのは、この日からだ。

あれから一年が経って、母はもう、すっかり元気になって退院している。私は今、みんなと協力する時に大切にしていることがある。それは、自分で考えて自分から行動することだ。力を合わせるということとは、相手のことを考えながら、心を一つにするということ。みんなで心を一つにして、がんばれば何でもできるはずだ。

勇氣と心

《小学生の部 銀賞》

伴南小学校六年 安面 柘哉

ぼくはクラスで力を合わせて取り組むとき、こわいです。

ぼくは心配しようなので、クラスで力を合わせて取り組むとき、失敗してしまうかな、大じょう夫かなと心配になります。なぜかという、みんなから、「何やつてるの？」とか怒られたり、大きな失敗をして、いやなあだ名やかげ口を言われたりするの、こわいからです。けど、クラスのみんながこんなことを言わないのは分かっています。けど、こわいです。万が一のことがあったらと考えると、心苦しくなります。クラスのみんなを信らいして、いらないわけではありません。だから、こわくてもクラスのみんなを信らいして、勇氣を出して取り組みます。そうしたら、意外とうまくいってこわくなくなるんです。

ぼくが力を合わせて取り組むときに大切にしたのは、力を合わせて取り組む人たちを信らいする心とこわいけどがんばって一歩をふみだせる勇氣です。人を信じられない人や疑心暗鬼の人もこんな心を持って、人を信らいして取り組めばぼくはいいと思います。

みんな、えがおで。

《小学生の部 銅賞》

河内小学校三年 渡邊 碧人

ぼくは、みんなで何かをするときは、みんなが楽しくとり組めることを大切にして
います。なぜなら、楽しんでいるときのみんなのえがおがすごくてきだからです。
楽しくとり組むために、ぼくは気をつけていることがあります。けがをしないこと。
かしてあげること。こまっている人がいたらたすけてあげること。じゅんぱんをまも
ること。はげましてあげることです。どれもみな、とてもかんとんにできます。もし、
みんなが、気をつけられたらどんなときでもみんなえがおですごせると思います。
ぼくも、みんなで何かをしているときに、うまく出来なかつたりして楽しくなくな
りそうになることがあります。そんなときには、おわったときの気もちを想ぞうして
楽しい気もちをとりもどしています。みんなで何かをすると、一人でしたときよりも、
何ばいもすごいことができるし、何ばいも楽しい思い出ができるとぼくはかくしんし
ているからです。

助け合いから生まれたもの

《小学生の部 銅賞》

楠那小学校六年 柳田 帆花

私は、五年生の時、総合的な学習の時間に、「楠那小 残食ゼロ大作戦！」に、取り組みました。一年を通して米作りを体験し、米の残食が多い楠那小児童に、米の力を伝え、残食を減らしていくという作戦です。

この作戦を通して、私は、助け合いの大切さを学びました。米作りで、代かきという素足でどろの中に入り、土をやわらかくする作業中、私がこけそうになった時、友達の手を引っぱって助けてくれました。刈った稲を束ねる作業の時、上手く結べない私に、優しく声をかけてくださった先生、友達のおかげで無事束ねることができました。そしてついに食べる日がきました。あの時の味は、今でもはつきり覚えています。優しい甘さで、助け合い、努力したことが分かる味でした。そして、米のみ力を伝えることができました。

助けられたから助けるのくり返しで、世界が出来ていること、助けられたから今度は自分の番！そうするといつか自分に返ってくることを、この一年を通して学ぶことが出来ました。

ちからをあわせてとりくむ

《小学生の部 入選》

荒神町小学校一年 脇坂 俊樹

ぼくは、サッカーをするときえがおでわらって、「いつしよにあそぼうよ」とこえをかけます。たいせつなことは、やさしいきもちでおともだちにこえをかけることだとおもいます。たとえば、ともだちにボールをパスするときも、「いくよー」とこえをかけると、うまくパスができて、てんがとれたりします。みんなとちからをあわせるには、そんなやさしいことばでこえをかけあうことがたいせつなんだとおもいます。

声かけは、え顔のもと

《小学生の部 入選》

阿戸小学校三年 益永 純怜

仲間と力を合わせると、いいことがたくさんあります。それは、行事のときには、目ひょうをたっせいできたり、じゅ業のときには、いろいろな意見が生まれたりすることです。

また、分からなかった問題がとけたり、相談したらいいアドバイスが返ってくることもあります。

わたしは、仲間と力を合わせるとき、声かけが一番大切だと思います。わたしの通う小学校では、さい近、運動会がありました。運動会の練習では、仲間と力を合わせる場面がたくさんありました。練習のとき、同じグループの同きゆう生の子に、「最後までがんばろうね」と言いました。そうすると、同きゆう生の子は、「うんっ！わたしも最後までがんばる！」と、え顔で答えてくれました。声をかけ合うことでもっとがんばろうという気持ちが出てきました。そのおかげで、練習もあきらめず取り組み、運動会本番もせいこうさせることができました。

これからも、仲間との声かけを大切にしながら、力を合わせたいです。

みんなでそうじ

《小学生の部 入選》

三篠小学校四年 児童

今年の五月に、お父さんと学校の親子せいそうをしました。

お父さんがスコップで、草が取れにくい場所をほりおこしました。私は草の根についた土を落としてふくろに入れました。その他にも、たくさんの人が草ぬきを手伝ってくれたのがうれしかったです。

いろいろな場所を草ぬきしていたらふくろの中が、三回ぐらいまんぱんになって草が、少なくなつてキレイになつたのでうれしかったです。たくさんの人数だったので一時間くらいがんばることができました。みんなで、そうじをしたらたくさんのごみがでたのでビックリしました。

一人やお父さんだけでは、こんなに学校中のごみを集めることはできなかつたことです。一年生から六年生までの人たちと、力を合わせることは、すごい力が出るのだなあと感じました。そして、心までが洗われたような気持ちになり、とてもつかれたけどスッキリしました。

あきらめない心

《小学生の部 入選》

三篠小学校四年 近森 理子

私がいみなできょう力して乗り切ったのはコロナウイルスです。

私たちが小学校に入学したときコロナウイルスがはやっていてみんなで登校することすらも出来ない時期がありました。私たちはコロナウイルスのせいで水泳や遠足、楽しい事があまり出来ませんでした。だけど私たちはマスクをてついでにつけ、手洗いとうがいもしつかりして、みんなできょう力して色々な対さくをしました。そうすることで、じよじよにみんなで登校したり、水泳や遠足などの楽しいことが出来るようになりました。そして今年はマスクをはずすことも出来て、みんなの顔も見られるようになり、学校に行くのが前よりも楽しくなりました。

私はいみなできょう力して乗り切るときに大切だと思ふことがあります。それは「あきらめない心」です。あきらめなければどんな事もみんなで乗り切れます。だからこれからもどんな事があつても「あきらめない心」を大切にしていきたいです。

力を合わせてできる事

《小学生の部 入選》

口田小学校四年 中村 恵名

力を合わせることはなんだろうと考えた時、学校生活でのいろんな事があてはまることに気づきました。例えば、そうじや給食当番、係の仕事です。これらは、わたし一人ではできない事ばかりです。みんなで力を合わせるから時間内におわったり、広い教室がきれいになるんだと思います。

最近では、クラス目ひようを決めることがありました。みんなで意見を出し合って決めました。わたしには考えつかない意見がたくさん出てきました。決める時は、自分の意見もちゃんと伝えて他の人の意見もちゃんと聞くことが大切です。それができていて、さらにみんなが目ひようを決めるという一つの目的に向かう事ができていたのでスムーズに決まりました。

力を合わせるといふ事は、一人ではできない事ができるようになったり、新しい考えや発見が生まれるのだと思います。わたしは、自分の意見を持つ事、人の意見も受け入れる事を大切にし、力を合わせ、助け合えるより良い学校生活にしたいです。

大切なのは話し合い

《小学生の部 入選》

五日市観音西小学校四年 新井 鈴乃

「話し合いながらやること」これが私の大切に思っていることです。

今年の運動会の種目に、クラス対抗リレーがありました。その練習の時、他の人を見ていたら、もつとこうしたらいいなと思う事がたくさんありました。その時、アドバイスをしたらその人は前よりもバトンパスが上手くなりました。さらに多くの人にアドバイスをしたり、良かった所を言ったりすると、みんなどんどん上手くなってきました。

私も友達にアドバイスをされたことがあります。そして言われた事をいしきしてやってみると、良くなりました。その時に私は「おたがい話しながらやると前よりよくなるんだな。」と思いました。

運動会本番の日、リレーで私のクラスは一位になりました。アドバイスをし合った、練習の成果が出たと思います。

私は、ただやるだけではなく、話し合いながらやる大切さを感じました。これから、人と力を合わせて取り組むときには、話し合うという事をいしきしていきます。

学校の当番

《小学生の部 入選》

楽々園小学校四年 山田 結衣

わたしは、学校でそうじ当番や給食当番をしています。そうじ当番ではぞうきんがけをしたり、給食当番では、つがれたごはんなどをはこんだり、牛にゆうを配ったりします。給食の時間やそうじをしている時、力を合わせて取り組むために、友達の気持ちを考えることを大切にしたいと考えています。

わたしは正しいと思っただけで注意をしていましたが、相手にとっちはいやな気持ちになっってしまうことがあります。相手はちょっとおこっただけで済みました。

その後、わたしはあぶないと思っただけで注意したことを伝え、相手はきれいになると思っただけでよかったことだったことを聞き、おたがいの気持ちを理かいたら、おたがいすつきりとしたいい気持ちになりました。

このように、わたしは、力を合わせて取り組むためには、友達の気持ちを考えることを大切にしたいと思います。これからも友達の気持ちを考えて行動したいです。

相手を知り力を合わせる

《小学生の部 入選》

幟町小学校五年 岡部 智仁

僕は力を合わせて取り組むことというテーマについて考えた時、キャンプでテント張りをした時のことを思い出しました。

キャンプに参加したみんながテント張りを楽しみにしていたわけでなく、最初はなんとなくバラバラな感じでした。そのため最初は、やる子とやらない子という二つのグループに分かれていました。

しかし、テント張り前にみんなで話をしてそれぞれの得意なこと、やりたいこと、苦手なことがわかり、最後は全員で力を合わせてテントを張ることができました。

その経験から僕が力を合わせて取り組むとき、一番大切なのは相手を知り理解することだと思います。なぜなら相手を理解すると、力を合わせることができない場合にもその理由がわかるからです。

その理由を知り、それをみんなで解決していくことが力を合わせて取り組むために必要なことだと思います。

相手の意見、自分の意見

《小学生の部 入選》

原南小学校五年 増岡 花音

私は、力を合わせるときには、相手の意見を認めながらも自分の意見をしっかりと伝えることが大切だと考える。

班で話し合いをするときに、「これがいんじゃないかな。」とか、「こっちのほうがいいよ。」と、自分の意見ばかり言ったことがあった。しかし、他の人の意見を押しつけてしまい、上手くいかなかった。そこで、次の話し合いでは、人の意見を聞き相づちをうつことにした。でも、あまり意見が出ず、そのまま時間が終わってしまった。「どうすればいいんだろう。」そう思いながら五年生の委員会活動が始まった。自分の意見を言うと、友達が「確かに。でも、これもいいかもよ。」とアドバイスをしてくれた。そうか、相手の意見を受けとめながらも、自分も伝えればいいのか。それで私は気づいたので。

力を合わせるには、相手と自分でしっかり伝え合うことが大切だと思う。これから、いろいろな人と協力していきたい。

認め合う大切さ

《小学生の部 入選》

児童

今、日本は平和です。しかし、世界では紛争が今でも続いている国や地域があります。アフガニスタン、ウクライナ、ミャンマー、イエメン、ティグレ、ソマリア、シリア、南スーダン、それらの国や地域で紛争が起こる原因は、主に、「民族」「宗教」「資源」「政治」「領土」があります。

私は、力を合わせて取り組むとき、自分の考えが全て正しいのではなく、相手の意見も尊重し、互いに認め合うのが大切だと思っています。けれど紛争が起こる原因の中には、異なる民族で考えが違うから、信じる宗教が異なり、その考え方が違うから、というのがあります。つまり、異なる考えを認め合えてない、ということなんです。もし、両者それぞれの考えが違ったとしても、自身の良い所、悪い所、相手の良い所、悪い所を認め合うのが紛争をなくすために必要なことなのではないでしょうか。

広島で開催されたG7サミットを通して、互いに認め合う大切さに気づく人が多くいると良いなと心から思っています。

わたしが大切にしたい事

《小学生の部 入選》

五日市中央小学校五年 橋本 紗矢

わたしは、人と力を合わせて取り組むときに大切にしたい事が二つあります。

一つ目は、人の意見を大切にすることです。相手の意見をしっかりと聞いて、大切なことをメモしたり、分かりにくかったところは、質問して、相手の意見をしっかりと理解したいです。また、自分の意見を相手に伝えるときは、分かりやすく意見をまとめたりして伝えると問題解決に近づけると思っています。おたがいの思いを知ることが、相手を大切にしているということだから相手ともいい関係でいられると思うからです。

二つ目は、一人一人に合った役わりを決めて、取り組むということです。全員で、同じ事をするよりも、一人一人に合った事を同時に実行する方がこうりつがいいからです。自分のとくぎやできる事を活かすと、よりいい作戦やアイデアがでると思うからです。

人と協力して一つのものに取り組む事は、新たな発見や自分の成長にもつながると、この作文を書いて改めて思いました。なのでこの事をこれからも大切にしたいです。

一人一人の思いを尊重して

《小学生の部 入選》

千田小学校六年 大串 あの

力を合わせて取り組むために私が大切だと思うことは、一人一人の思いを尊重することだ。昨年の長縄大会での経験を通して、そのことを強く思うようになった。

五年生のときに行われた長縄大会。私のクラスでは、一カ月以上前から大会に向けて練習に励んでいた。しかし、クラスには積極的に練習に参加する人もいれば、そうではない人もいた。

ある日私は、練習に来ない人に対して「どうして来ないの。」と強い口調で言ってしまった。するとその人はさらに練習に来なくなり、そのまま本番当日を迎えてしまった。もちろん結果は散々。苦い記憶だけが残された。

あの時のことを思い出すたびに、私の胸は後悔でいっぱいになる。練習に来なかった人たちにも何か理由があったのではないか、それを聞いてあげて解決策を話し合えば、結果は変わっていたのではないか。

このことから、私は一人一人の思いを尊重することが、力を合わせるために何よりも大切であると考える。

力を合わせて取り組むために

《小学生の部 入選》

千田小学校六年 景山 倅大

力を合わせて取り組むために、ぼくが重要だと思うことは、一人一人の価値観の違いを認め、互いの意見を尊重する姿勢である。

ぼくは道德の授業で、「せかいのひとびと」という一冊の絵本に出会った。そこには、様々な国の人々の生活の様子が描かれていた。住居、食事、宗教、遊び……、一つとして同じ国はなく、どの国も個性豊かだった。一方、絵本の最後には、個性のまったくない、画一的な世界が描かれていた。その絵の世界は、ぼくにとって「つまらない」世界であった。

また、クラスでは頻繁に学級会を行う。たくさん意見が出る中で、それらを組み合わせるよりよい意見が出来上がったり、だれも思いつかなかった新しいアイデアが見つかったりする。

これらのことから、世界はたくさんさんの価値観や考え方にあふれていて、だからこそ美しいのだと感じた。自分と違う存在を否定するのではなく、互いに尊重し合うことで、人間に秘められた無限の可能性を発揮することができる、僕は確信している。

相手の立場に立つ

《小学生の部 入選》

翠町小学校六年 岩部 綾実花

私が人と力を合わせて取り組むときに大切にしていることは相手の立場に立つて考えることです。人と力を合わせて問題を解決するときには主観的に考えるのではなく、自分が相手の立場だったらどう感じるだろう、周りの人から見たらどのようなのだろう、と客観的に考えることで意見をまとめていくことができると思います。実際に人と意見が対立したとき、一度相手がどう思うかその意見を通したいと思っているのかを考えたことで一つの意見にまとまったことがあります。自分の意見を持った上で、相手の立場に立ち、妥協点をさぐることでよりよい意見になると気がきました。

みなで力を合わせて取り組むことには少し難しさを感じます。けれど、相手の立場に立つということは相手の気持ちを考えてやることです。そして、それは問題の解決やこれからをもっとよくすること、平和な世界を追求するための「思いやり」につながっていくと思っています。

全体意識が生み出す力

《小学生の部 入選》

宇品小学校六年 松倉 惺介

ぼくは、広島少年合唱隊という合唱隊に入っています。合唱では、個性あふれるたくさんの仲間と共にさまざまな曲を練習しコンサートや定期えんそう会などで歌っています。そんなコンサートを成功させるには、それぞれがおたがいを意識し合うことが大切だと思います。例えば、ソプラノパートの人は自分たちを主張したがって大声で歌い、一方でアルトパートの人は自信がないので、小さい声で歌ったとします。すると、ソプラノパートだけが目立ってしまい、良い合唱とは言えません。ですが、それぞれがおたがいを意識し合ってどのパートも同じ声量で歌うと、きれいなハーモニーがでかかります。

また、任せられたことをやりとげることでも大切だと思います。例えば、定期えんそう会でミュージカルがある時、自分のセリフやソロがあります。それをしなかったら、物語が進まなかったり次の人につなげません。

だから、ぼくは力を合わせて取り組むときには、全体を意識して、任せられたことをやりとげることが大切だと思います。

行動して信じる

《小学生の部 入選》

己斐東小学校六年 小松 由奈

「フレー。フレー。あーかーぐーみ。」

私が力を合わせて取り組んだ、応援団長。ずっとあこがれていた応援団長。でも、それは過酷でした。

練習のときに聞こえた、「めんどくさい。」一週間経っても、一体感がでませんでした。そこで私は決意しました。

「大声選手権しよう！」

みんなは、キョトンとしていたけど、今まできいたことのないほどの大きな声をだしてくれました。うれしくて、私もお腹の底から声を出すと、みんなが拍手をしてくれました。

その日から、一体感がぐっと増しました。協調性がうまれました。

当日、自分のせいっぱいの声を出しました。みんなそろって、たのしかったと言っていました。

私にとつて、力を合わせて取り組むということは、まずは自分から行動してみないと始まらないと思います。そして、仲間を信じるということだと思えます。これからも、この二つを実践していきます。

無限大の力

《小学生の部 入選》

伴南小学校六年 宮川 英里

ぼくのクラスでは、班活動をたくさんします。班のみんなで力を合わせて資料を作ったり、文を読み取ったり、発想力を高めたりするのは、とても楽しいです。ぼくは、班活動を通して、気づいたことがあります。それは、一人ひとりに得意なことがあるということなんです。意見を出すのが得意な人、まとめるのが得意な人、絵を描くのが得意な人。みんなの「得意」を合わせたら、ひとりでは難しかったかもしれないことをやりとげることができます。それだけではありません。「きれいに書いてくれてありがとう」「こうするともっとよくなるんじゃないかな」と、感謝の気持ちを伝えながら、相手を思いやりながら、コミュニケーションを重ねていくうちに、班の中で「信頼」が生まれます。すると、さらにいい班活動ができてくることに気づきました。お互いに感謝を忘れず、思いやりを持って力を合わせることを大切にしたいです。そうすると、そこで生まれる力は無限大だから。

人を知り自分を知る

《小学生の部 入選》

東野小学校六年 横村 啓太

ぼくは人と力をあわせて取り組むということはとても大切なことだと思えます。なぜなら、この力は大人になり、社会人として働くときに必要な力だと思うからです。今は学校の友達といっしょに物事に取り組んでいます。友達はいいきません。いきなり知らない人と、上司や部下と物事に取り組んでいきます。友達と力を合わせ、物事に取り組むことが今できていないと、知らない人と力を合わせることも、なんて絶対にできません。なので、今のうちに力を合わせて物事に取り組める力をつけておくべきなのです。ではどうしたら力を合わせて取り組む力がつくのでしょうか。ぼくは今のうちに人とたくさん関わるといいと思います。たくさんの人と関わっておくことで人というものを知れると思います。この世の中にはいろいろな人がいます。なので今、人とたくさん関わることで人を知れて自分というものも知れると思います。どんなタイプの人が得意だ、苦手だ、という自分のことを知っておくことで将来、役に立つのではないのでしょうか。

力を合わせるために必要なこと

《小学生の部 入選》

可部小学校六年 川北 直哉

「力を合わせて取り組もう」と言うことは簡単である。しかし、それを実行することとは意外と難しいのではないだろうか。そして、人数が多いほどまとまりにくくなる。力を合わせるといふことは、お互いに助け合い、譲り合い、協力していくことだと思ふ。そのうえで大切なことは、相手に耳を傾けること、相手を認めること、相手に共感することではないだろうか。

誰もが自分の考えを持っている。それを踏まえて話し合うこと、時間がかかっても納得できる状態にすることが、同じ目標に向かって力を合わせて取り組んでいける方法だと思ふ。

しかし、相手のことを否定して自分の考えだけを押し通しては、解決の糸口は全く見えてこない。それどころか、分裂して争いが起きてしまう。僕は物事をみんなで達成していくためには、相手を認めて共感することが最も大切だと思ふ。これからは、自分の周りの人たちと協力して生活していきたい。意識すれば、難しくないことだ。

